

# 平成 25 年 8 月 J-STAGE 利用学協会説明会 説明補足事項および質疑応答

## (東京会場および京都会場)

### ■新機能について (説明補足事項)

(記事訂正機能) レジューメ 11 ページについて、基本書誌情報訂正機能において、DOI や記述言語、査読有無の修正ができるようになっていた画面があります。見かけ上入力ができますが、データには反映されないのをご注意ください。今後、この部分を入力不可とする等改修を予定しております。

なお、今後記事修正は学協会様にて (依頼書の提出等なく) 行えますが、必ず訂正履歴が表示されますのでご了承ください。ジャーナル品質上、訂正履歴の内容、理由は必ず入れていただくようお願いします。なお、公開中の早期公開記事、全文 HTML 本文の修正は従来どおり依頼書での対応となります。

(早期公開-本公開対応) これまで、早期公開の記事を本公開する際に、1 記事ずつ選んで記事リンクを張りながらデータを作成する、ということしか出来ませんでした。手間がかかるうえ、リンクを貼られない早期公開と本公開が並立してアップされてしまうような事態も発生していたため、一括のアップロード機能を提供することになりました。こちらは通常の公開と同じように一括アップロードをすることによって、本公開記事をアップロードできるということ、また自動的に早期公開、本公開記事のリンクを作成することができます。操作方法については、本公開用の記事を通常の公開と同じように、ZIP でセットを作ってくださいますが、その際にご注意いただきたいのが、必ず早期公開記事と対応した記事番号をデータに入れる点です。このデータをアップロードしようとする画面には、今までは早期公開しかありませんでしたが、新たに [本公開] という選択肢が増えています。

※その他多くの新機能・動作改善がリリースされます。詳細については、説明会資料、およびマニュアルをご覧ください。

(J-STAGE マニュアルページ) [https://www.jstage.jst.go.jp/pub/html/AY04S220\\_ja.html](https://www.jstage.jst.go.jp/pub/html/AY04S220_ja.html)

### ■質疑応答

※会場でいただいたご質問と応答を掲載しています。

(個人・機関情報保護等のため、J-STAGE のご利用学協会様全般に関連する内容に編集・要約しております。何卒ご了承くださいませ)

Q. BIB をアップロードしているが、BIB ファイルが今後も使えるのかどうか?いつまで使えるのか。

A. サポートは終了しますが、BIB でアップロード自体は当面可能です。ただ、J-STAGE では今後、XML を推奨していくという形になります。細かなレイアウト上の課題などはあるものの、XML が科学技術情報のみならず、インターネット上での情報の流通の基本となっていく中で、今後 J-STAGE、また J-STAGE 以外でも他の学術サービス等が XML の標準的な構造化データを利用して新たなサービスを展開してくる可能性なども大いにあるものと思われれます。そういった世界的な流れの中で、XML を推奨していきたいと考えております。



Q. J-STAGE では Mathjax に対応しているということであったが、全文 XML のフォーマットだけでアブストラクトには対応していない。全文 XML で使えるのであれば、アブストラクトにも入れられるように対応して欲しい。

A. 今後改修を検討してまいります。

Q. 新機能で、書誌事項の修正も訂正履歴を出さないようにできないか。掲載段階でそういったミスが多く、都度訂正履歴が出てしまうと画面が煩雑になってしまう。また、例えば書誌情報として、アップロードをしたときに例えば英語と和文のタイトルどちらかを忘れたというような場合、内容の訂正ではないので、履歴を表に出ないようにできないか。

A. 公開学術情報であるジャーナルの品質、信頼性を担保する観点から、一度内外に向け Web で公開した情報について、何らかの修正があった際にその「履歴を出さない」という対応は行わない、というのがプラットフォームとしての原則的な立場です。基本的にはそういったミスのないよう、各発行機関様において十分なお確認をお願いしているところです。

Q. セクションを間違えた場合の修正は学会ではできないのか。

A. 今回リリースする記事修正機能は、セクションの修正には対応していないため、万一修正が必要になる場合は依頼書をご提出いただけます。繰り返しのお願いになりますが、電子ジャーナルとしての貴誌の品質を担保する上でも、公開後の修正は極力行わずにすむよう、事前の確認等をお願いいたします。

Q. 投稿審査システムの一部有償化の件について、会員規模の人数の幅が急に大きくなるのはどういう基準なのか。

A. 基準の算出根拠についてですが、有識者委員会で具体的な金額等についても最も時間をかけて議論をいただいたところです。その中で学協会様の財政を逼迫させない範囲で、かつ財務当局を納得させられるような体系を、というところで策定されました。何卒ご理解を賜れますと幸いです。

Q. パッケージ化の促進、JSPS との連携した支援のメリハリとは具体的に何か。

A. パッケージ的なプロモーション等については、報告書の原本(注: J-STAGE サイトで公開中)の中で言及されております。J-STAGE の中で特にコアジャーナルのようなところをパイロット的に、まずは(学協会様に)手をあげていただいて、パッケージのような形式で選定をさせていただき、その中で重点的に支援をしていくイメージです。科研費の枠組みとの連携については JSPS と協議を開始したところですが、そうして J-STAGE のプレゼンス全体の底上げをしていく、という枠組みなどがありうるものと考えています。

Q. 記事修正について、今後は学協会が独自で判断するようだが、その時の修正をどこのレベルでかけるのか、ポリシーとしてはどのように考えているのか。

A. J-STAGE としてのポリシーには変更がありません。記事修正は基本的にはエラータを出していただき、そのエラータと元記事の記事リンクで行っていただくというのが基本となります。なお、たとえばリトラクトの際に pdf の記事そのものを消してしまわずに記事の上にヘッダーをつけて、読めるようにしておきつつ、リトラクトされている記事だとわかるように運用される場合等があり、この場合、ファイル的には記事を差換えるということになると思われませんが、このような機能について今までは「記事修正依頼書」という依頼書を(学協会から)センターに提出していただいております。今後はこの部分を学協会様でできるようになる、つまり、記事修正依頼書を出していたフローが学協会様で対応できるようになる、その部分が置き換わるというようにお考えいただければと思います。

Q. 巻号ページではなく、DOI しか持っていない引用文献などもあるが、DOI で書いた引用文献は JaLC での問い合わせでちゃんとリンクがはられないことが多い。改善すべきと思うがどうか。

A. 改修案件と認識しております。ご迷惑をおかけしており申し訳ございません。

Q. 引用文献のリンク率向上対策を行っていて 9 月末までに完成する予定とのことだが、現在当方で刊行している雑誌について、同じように作成している雑誌であっても、引用文献が多数はられているものとほとんどはられていないものがある。その違いについて、以前 JST から解答をいただいた内容は、当方で作成しているメタデータに起因するのではないかということだった。しかし、その理由だけでは解決しないものもあると思われる。何かそれ以外の原因は考えられないか。

A. 引用文献リンクについては、ご案内のように J-STAGE とは別にリンクセンター（JaLC）システムにおいて管理されております。現在リンクがうまく張られないケースがいくつかあるため、継続して調査をしております。ご迷惑をおかけしております。例えば J-STAGE2 では J-STAGE3 よりも仕様上平文検索が多く、そちらの兼ね合いも原因ではないかと考えられます。また、同じジャーナルの別の記事を引用していて一方しかリンクがはられていないという件については、①JaLC が外に引用文献を探しに行った際に、記事を片方だけしか持ってこれなかったという場合、あるいは②何かメタデータで JaLC に検索を行った時に、例えばジャーナルのタイトルの最後にピリオドがついているかいないか、そのレベルでも検索ができないという場合があります。そういったものについて、場合によっては精度が足りず間違ったリンクがはられてしまう可能性も出てまいります。逆にリンクが見つけやすくなるといったこともあり、そのような点も含め 9 月末に改修を行って、一度データを取り直してみても検討させていただき、チューニングを行ってゆきたいと考えております。

以上



(東京会場説明会の様子) 多くの皆様にお集まりいただき、誠にありがとうございました。